

選定候補案（木）

資料1の考え方によりこの案を作成しました。

※ 今回は、すべてカタカナで表記しました。

市の木	ブナ	【選定理由】ブナは市内各地の高海拔地に広く分布しており、落葉が厚く堆積し、根系が発達して水を貯める水源かん養機能が高く、表土を安定させ自然災害を防ぎ、自然環境を保全する大きな役割を果たしています。「さけの森林づくり」として、ブナ幼木の植栽も行われ、村上市の自然のシンボルと言える木である。
		【選定理由】
推奨の木	スギ	【選定理由】神社のご神木、寺院のご賽木として古くからあがめられ、また建築材のほか桶、樽、板屋根、和船など生活に深いかかわりがありました。県内有数の林業地である本市では、適正な森林整備による良質な市産材の生産体制整備を推進している。（旧朝日村、旧山北町）
	マツ	【選定理由】マツは庭木として植えられているほか、海岸砂丘地にはクロマツ、山地にはアカマツが多く育っている。海岸林は保安林で瀬波とお幕場は約400年ほど前にアカマツを植林した林だと言われている。（旧村上市：アカマツ、旧神林村：松）
		【選定理由】
		【選定理由】

選定候補案（花）

資料1の考え方によりこの案を作成しました。

※ 今回は、すべてカタカナで表記しました。

市の花	ハマナス		【選定理由】 村上市の海岸一帯に群生し、自然環境が保護されている条件で育っている花である。訪れる人の心を和ませており、本市にゆかりのある皇太子妃殿下雅子様のお印としても知られている。
			【選定理由】
推奨の花	春	クロッカス	【選定理由】 荒川地区はクロッカスの球根生産量が日本一で、春を訪れを感じさせてくれる花である。
		カタクリ	【選定理由】 春早く咲く可憐な花カタクリは、市内の里山の何処にでも自生している植物である。特に諸上寺公園の群落は見応えがある。
			【選定理由】
	夏	ユリ	【選定理由】 ヤマユリは、市内の里山のいたるところに自生している花である。イワユリは学名ではスカシユリと言い、山北地区の海岸の岩場に咲く花である。(旧神林村:ユリ、旧山北町:ヤマユリ・イワユリ)
		ヒマワリ	【選定理由】 ヒマワリは、花が太陽に向かって回るといふ俗説もある。観賞用として広く栽培され、親しまれている花である。(旧朝日村)
			【選定理由】
	秋	ヤマハギ	【選定理由】 ヤマハギの花は小さいが美しい季節感のただよふ花で、秋の七草の一つである。秋になると、市内の里山では何処にでも見られる風景である。
			【選定理由】
	冬	サザンカ	【選定理由】 花の少ない冬に咲く花で、市内でも庭の植木や生垣として、あちらこちらで見受けられる。(旧荒川町:木でさざんか)
			【選定理由】

選定候補案（鳥）

資料1の考え方によりこの案を作成しました。

※ 今回は、すべてカタカナで表記しました。

市の鳥	クマタカ		全長72～80cmの大型のタカ。成鳥では各部の横斑、縦斑が黒っぽい。幼鳥では斑紋が不鮮明で全体に白っぽく見える。山北地域でシロタカと呼ばれるのはそのためであろう。翼の後縁のふくらみが特徴的。平野部を除く山地の森林、特に落葉広葉樹に生息し、巨木に営巣する。（絶滅危惧種Ⅰ）
推奨の鳥	春	オオルリ	春、夏鳥として人里近い山地の樹林に生息し、沢の地上や崖に営巣する。樹梢で美しい音色でさえずり、頭部から背にかけてのコバルト色が陽に映えて美しい。日本三名鳥の一つ。
		サンコウチョウ	春渡来し、人里近い山地の樹林で生息し、ほうの木の小枝に営巣する。雄は長い尾羽を波のようにくねらせて跳ぶ。名前の由来は、そのさえずりが月、日、星と聞こえるからである。英名は日本極楽ヒタキ。（準絶滅危惧種）
		キジ	本市においても平地から低山にかけての草原、疎林に多数生息し、愛情豊かなその姿は、昔から市民の身近にあり、生活に深い関係にある鳥である。（旧朝日村）
	夏	ウミネコ	カモメ類の中で、ただ一種この地域で繁殖する。砂浜や岩礁海岸、時には川の中流までさかのぼり、ゆっくりと羽ばたいて飛翔する。
	秋	ミサゴ	全長55～63cm。頭部は白く、背面は濃褐色で、翼の下面は白地に褐色の縦横帯がある。川面でホバリングし水面に突入して魚を獲る。（準絶滅危惧種）
	冬	ハクチョウ	大池で羽を休め、稲株の広がる水田で餌をついばむハクチョウ（オオハクチョウ、コハクチョウ）の群れが、冬枯れの淋しい景色の中で和ませてくれる。
		シロガモ	冬季、岩礁海岸へ飛来し、潜水して貝類や小魚を食べる。雄の羽毛の模様が目を引く。（準絶滅危惧種）